

# 徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 冬(新年含む)の季語 上巻

FACEBOOK 投稿分

財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ2014 ～俳句へのいざない～』は2014年(平成26年)FACEBOOKに投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節(春・夏・秋・冬)ごとに、それぞれ3巻(上巻・中巻・下巻)にわけて刊行しております。

一月一日

今日の季語のご紹介は“年賀(ねんが)”です。

新年に親戚・恩師・先輩・友人などに会う若しくは賀状を送り年頭の祝詞をのべることだそうです。

“年賀”を使った俳句(五・七・五)を作ってみては……。

して昔より拝まれておりました。今年も皆様にとりましてよい年になりますように……。

一月二日

今日の季語のご紹介は“書初(かきぞめ)”です。

新年はじめてかく書道や絵を言うそうです。

小学校の宿題として皆さんも書初をされたことがあるのではないのでしょうか……。

また“初夢”という季語もあります。

一月三日

今日の季語のご紹介は“三ケ日(さんがにち)”です。

とそや雑煮などで新年を祝う3日間で1月の1・2・3日をさします。

今年の正月、皆様はいかがお過ごしでしたか……。

一月四日

今日の季語のご紹介は“初霞(はつがすみ)”です。

新春に遠くの山野をみて、かすんでいる様子です。

“初霞”を使った俳句(五・七・五)を作ってみてください。

一月五日

今日の季語のご紹介は“門松(かどまつ)”です。

正月に家の門の前に建てる祝いの松です。簡素なものより太竹三本の周囲を松の枝葉で飾った大型のものまで種々あるそうです。

一月六日

今日の季語のご紹介は“注連飾(しめかざり)”です。

新年に門口・神棚・床の間・車などに不浄を払う意味で飾る注連縄(しめなわ)の事です。

伊勢海老・ダイダイ・昆布・ユズリハなどを添える風習もあるそうです。



一月七日

今日の季語のご紹介は“七草（ななくさ）”です。

春の七草でセリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベ・ホトケノザ・スズナ・スズシロをいい、正月の7日の朝にこれらを入れた七草粥（ななぐさかゆ）を食べる風習があります。

皆様は七草粥をお食べになりましたか。

一月八日

今日の季語のご紹介は“餅（もち）”です。

餅は必ずしも正月のものではありませんが餅を正月の季語として用いる例は多いそうです。正月に家族などに配る小餅を九州地方では「年の餅」というそうです。

一月九日

今日の季語のご紹介は“田作（たづくり）”です。

ヒシコイワシの幼魚を干して砂糖・醤油で煮たり・炒ったものです。正月料理の一つです。

一月十日

今日の季語のご紹介は“十日戎（とおかえびす）”です。

1月10日の初戎をいいますが、これは関西の戎神社で行われる祭りで関東では見られないそうです。戎祭は商人の信仰があつく福笹が売られます。

一月十一日

今日の季語のご紹介は“蔵開（くらびらき）”です。

商家で初めて蔵を開く祝いだそうです。鏡開と同じ11日の慣習となっており、鏡餅を割って雑煮などを作り雇人や出入りの職人を酒・肴でもてなすそうです。

一月十二日

今日の季語のご紹介は“初場所（はつばしょ）”です。

本日より東京の国技館で15日間の日程で大相撲が行われます。

以前は春場所と言ってたそうですが6場所制になってからは春場所は3月に大阪で行われる場所となったそうです。



一月十三日

今日の季語のご紹介は“成人の日（せいじんのひ）”です。

以前は1月15日が成人の日でしたが祝日法の改正により2000年より1月の第2月曜となっております。

満20歳の男女を祝いはげます国民の祝日で各地で市町村主催の成人式が催されます。

一月十四日

今日の季語のご紹介は“冬薔薇（ふゆばら）・寒牡丹（かんぼたん）”です。

冬薔薇は冬に咲くバラのことで華やかに咲く春や夏のバラよりも、つつましいおもむきがあり美しいバラです。

寒牡丹は寒中に咲く園芸種の牡丹で紅・紫とりどりに美しく花を咲かせます。

なお普通の牡丹の花は初夏に咲きます。

一月十五日

今日の季語のご紹介は“小正月（こしょうがつ）”です。

小正月は十五日粥（1月15日に餅を入れた小豆粥を食べる風習で1年の邪気を払うとされてます）を食べて祝うなど日本各地に種々の風習があります。

京都・大阪では松の内(正月の松飾りをしておく期間。※日本各地に風習があり異なります。

一般的に7日もしくはそれより長い期間は女性は忙しいので小正月を年礼のはじめとしたことより女正月とも言うそうです。

一月十六日

今日の季語のご紹介は“歌会始（うたかいはじめ）”です。

正月に宮中で行われる新年の歌会のことです。

天皇、皇后の御歌をはじめ、一般詠進歌からの入選歌が披露されます。

昨日（15日）皇居で行われた「歌会始の儀」短歌のお題は“静”でした。

一月十七日

今日の季語のご紹介は“左義長（さぎちょう）”です。

小正月の火祭りで、取っ払った門松やお飾りなどを集めて焚く行事です。

他に「どんと」とも言われます。

また書初を燃やし、高くまで紙が上がれば字が上手になるとも言われます。

一月十八日

今日の季語のご紹介は“初観音（はつかんのん）”です。

新年はじめての観音の縁日です。

観音とは観世音菩薩の略で慈悲深い徳があり世の衆生のすくい求めに応じて大慈大悲を垂れ三十三身に身を現じるといわれます。



一月十九日

今日の季語のご紹介は“三寒四温（さんかんしおん）”です。

（朝鮮・中国）大陸では寒い日が3日続くと、その後、暖かい日が4日続くという周期があります。日本ではそれほど明瞭ではないですが寒暖が交互に来ることはしばしば経験しますね。

一月二十日

今日の季語のご紹介は“二十日正月（はつかしょうがつ）・大寒（だいかん）”です。

二十日正月とは1月20日の朝に小正月の団子を食べたりします。西国では「骨正月」とも言います。また大寒とは1年の中でも最も寒い時期【1月20日頃より2月3日（立春の前日）頃まで】を言います。皆さん寒さに負けずに過ごしましょう。

一月二十一日

今日の季語のご紹介は“初大師（はつだいし）”です。

今日は弘法大師の初の縁日です。

神奈川県の川崎大師や京都の東寺などで縁日が行われます。

東寺で行われる縁日を「初弘法」と言います。

一月二十二日

今日の季語のご紹介は“虎落笛（もがりぶえ）”です。

冬の風が垣根・柵・電線などに吹きつけて笛のような鋭い音を立てるという意味です。

ちなみに「もがり」とは竹を組んだ柵や垣の事です。

一月二十三日

今日の季語のご紹介は“冬風（ふゆなぎ）”です。

冬は季節風が多くて海も荒れがちですが、たまに穏やかに風わたる時があるという意味です。風景を思い浮かべると何か気持ちよさそうな感じがしますね。

一月二十四日

今日の季語のご紹介は“山眠る（やまねむる）”です。

黙々と眠りに入っているような冬山の姿をこういいます。

他に春は山笑う（やまわらう）、夏は山滴る（やましたたる）、秋は山粧う（やまよそおう）など季節ごとに山を使った季語があります。



一月二十五日

今日の季語のご紹介は“初天神（はつてんじん）”です。

今日はその年の初の天神祭です。

太宰府神社・京都北野神社・大阪天満宮・東京の亀戸天神社や湯島天神社が大いににぎわっています。

一月二十六日

今日の季語のご紹介は“寒菊（かんぎく）”です。

寒中に咲く菊でハマカンギクの変種です。

花・葉とも小さいですがキリリとした感じがあります。

一月二十七日

今日の季語のご紹介は“隙間風（すきまかぜ）”です。

戸・扉・障子などの隙間から吹き込む寒い風の事です。

わずかな風でも身にしみますね。

一月二十八日

今日の季語のご紹介は“初不動（はつふどう）”です。

今日は不動尊の縁日です。

関東では成田山新勝寺の不動が著名で最も多くの人出があります。

一月二十九日

今日の季語のご紹介は“福寿草（ふくじゅそう）”です。

キンポウゲ科の多年草です。

自生もいたしますが正月用に鉢植えとして栽培します。

名前の良さと、寒さに負けずに咲く黄金色の花より、よろこびの花とされております

一月三十日

今日より2日間は“寒（かん）”の季語の紹介をします。

1日目の今日は“寒の入（かんのいり）”です。

寒の入とは1月5日頃をさします。

☞小寒（しょうかん）は1月5日頃より1月19日頃まで。

☞大寒（だいかん）は1月20日頃より2月3日頃（立春の前日）まで。

寒の入より立春の前日までの30日間を“寒”と言います。



一月三十一日

“寒（かん）”の季語の紹介2日目の今日は“寒の内（かんのうち）”です。

寒の内とは寒の時期（1月5日頃より2月3日頃（立春の前日）まで）の30日間をさします。寒に入り9日目を“寒九（かんく）”、立春前の18日間を“寒土用（かんどよう）”と言います。また“寒九の水（かんくのみず）”は寒九に飲む水は薬になるという意味です。

二月一日

今日の季語のご紹介は“空風（からかぜ）”です。

空風とは天気つづきに吹く乾燥した強い北風のことです。

こよみの上ではもうすぐ“冬（ふゆ）”の終わりです。

俳句の季語で冬は立冬より立春の前日をさします。

二月二日

今日の季語のご紹介は“春近し（はるちかし）・春を待つ（はるをまつ）”です。

春近しとは春はそこまでやってきているという事です。

また、春を待つとは春近しより主観的で春が待ち遠しい心模様を表現した季語です。

二月三日

今日の季語のご紹介は“節分（せつぶん）”です。

立春の前日で冬より春への変り目の時という意味です。

地方によっては「寒ばなれ」や「節替り」という古称を残している所もあります。

本年1月1日より今日まで冬（新年含む）の季語をご紹介してきました。

明日より季節は春へと移っていきます。

